

ハ、太政官之ヲ督シテ、供物ヲ諸寺ニ送ル、寺院ニテハ法會ヲ營ミ、施餓鬼等ヲ爲ス、民間ニア  
リテハ、祖先ノ魂ヲ家ニ迎ヘテ供物ヲ獻ジ、燈籠ヲ懸ケ、僧侶ハ棚經ト稱シテ、月々ニ就キテ  
諷經スルアリ、又士女ハ街巷ニ集リテ、唱歌、謔舞スルアリ、又送リ火トテ、十五日若シクハ十  
六日ノ夕、薪ヲ焚ク事アリ、京都東山ノ大文字、火等ハ尤モ著名ナルモノナリ、又中世益前ニ  
生身玉ト云フ事アリキ、蓋シ益中ニ死者ヲ供養シテ、其魂ヲ祭ルニ倣ヒテ、生存ノ人ヲ饗應  
シテ、延年ヲ祝スルナリ、

〔名目抄〕恒例諸公事ウラ孟蘭盆供ボシ不讀供字例也

〔書言字考節用集二時候〕孟蘭盆ボシ七月十五日具設百味百菓著

〔倭訓栞保中編二十三〕ぼん うらぼんを略して、盆とのみいへり、七月の節也、

〔蜻蛉日記上之上〕十五六日〇應和二〇なりぬれば、ぼに〇な〇ど〇する〇ほ〇ど〇なり〇に〇けり、

〔翻譯名義集四惣明三藏〕孟蘭盆孟蘭、西域之語、轉此翻倒懸、盆是此方貯食之器、三藏云、孟羅百味、式

之行如政、解氏之說、應法師云、孟蘭言、訛、正云、烏藍婆、拳、此云救倒懸、

〔釋氏要覽下雜紀〕孟蘭盆此釋子、申孝報恩、救苦之要、以目蓮、救母爲始也、

〔隨意錄七〕正月十五日曰上元、七月十五日曰中元、十月十五日曰下元、本是道家之事、以此三日、神靈  
下人間、校定罪福云、而以中元祭祖先者、全原于釋氏、孟蘭盆經目蓮之事、而唐代宗篤信浮屠、七月望  
日、宮中造孟蘭盆、設高祖以下七聖位、綴飾以祭之、斯其權輿歟、釋氏要覽、梵語孟蘭華言、解倒懸、盆則  
盛其薦具之器也、而世俗唯稱盆者、不通之言也、且方俗稱中元祭曰盆、別稱二十四日、以爲孟蘭盆、不  
知是何由也、方言表裏之裏、曰宇羅、故愚俗以孟蘭盆爲裏盆之謂者、尤可捧腹也、

〔四方の硯下〕七月十四日の夜、家ごと〇にその先祖のまつりをなすを佛とむらふといはずして、精  
靈まつりといひ、佛壇といはずして、たま棚といひ、棚經といふ、春秋の祭式は、忌日にもかくいひ